

	喫煙経験			全体
	なし	あり	無回答	
男性				
いる	23810 (95.1)	10644 (94.4)	331 (79.6)	34785 (94.7)
いない	1071 (4.3)	550 (4.9)	31 (7.5)	1652 (4.5)
無回答	168 (.7)	81 (.7)	54 (13.0)	303 (.8)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)
				($\chi^2 = 6.66910$, $df=1$, $p=.00981$)
女性				
いる	27606 (96.2)	5726 (93.9)	221 (84.0)	33553 (95.7)
いない	958 (3.3)	326 (5.3)	14 (5.3)	1298 (3.7)
無回答	133 (.5)	44 (.7)	28 (10.6)	205 (.6)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)
				($\chi^2 = 57.77606$, $df=1$, $p=.00000$)
全体				
いる	51416 (95.7)	16370 (94.2)	552 (81.3)	68338 (95.2)
いない	2029 (3.8)	876 (5.0)	45 (6.6)	2950 (4.1)
無回答	301 (.6)	125 (.7)	82 (12.1)	508 (.7)
全体計	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)
				($\chi^2 = 54.46722$, $df=1$, $p=.00000$)

表 49 親しく遊べる友人がいるか

	喫煙経験			全体
	なし	あり	無回答	
男性				
いる	19666 (78.5)	8897 (78.9)	275 (66.1)	28838 (78.5)
いない	5043 (20.1)	2217 (19.7)	78 (18.8)	7338 (20.0)
無回答	340 (1.4)	161 (1.4)	63 (15.1)	564 (1.5)
男性計	25049 (100.0)	11275 (100.0)	416 (100.0)	36740 (100.0)
				($\chi^2 = 1.01150$, $df=1$, $p=.31454$)
女性				
いる	25694 (89.5)	5338 (87.6)	198 (75.3)	31230 (89.1)
いない	2711 (9.4)	687 (11.3)	32 (12.2)	3430 (9.8)
無回答	292 (1.0)	71 (1.2)	33 (12.5)	396 (1.1)
女性計	28697 (100.0)	6096 (100.0)	263 (100.0)	35056 (100.0)
				($\chi^2 = 19.29887$, $df=1$, $p=.00001$)
全体				
いる	45360 (84.4)	14235 (81.9)	473 (69.7)	60068 (83.7)
いない	7754 (14.4)	2904 (16.7)	110 (16.2)	10768 (15.0)
無回答	632 (1.2)	232 (1.3)	96 (14.1)	960 (1.3)
全体計	53746 (100.0)	17371 (100.0)	679 (100.0)	71796 (100.0)
				($\chi^2 = 55.36926$, $df=1$, $p=.00000$)

表 50 相談事のできる友人がいるか

男子で76%、女子で74%と、両群間には著しい違いがあった。

これらは、中学生にとっての「シンナー遊び」が、喫煙と強い繋がりを持っていることを強く示唆するものである。

3. 「シンナー遊び」と大麻乱用との関係

(1) 大麻乱用の生涯経験率について

各学年・性別毎に大麻乱用の生涯経験率（これまでに1回でも乱用したことのある率）を表54に

示した。

1996年の第1回調査⁹⁾同様、男子では学年による経験率の違いに有意差(p<0.05)が認められたが、女子では認められなかった。

生涯経験率は男子では0.9%（1年生で0.7%、2年生で0.8%、3年生で1.0%）であり、女子では0.5%（1年生で0.5%、2年生で0.4%、3年生で0.5%）であった。全体では0.7%（0.6%、0.6%、0.8%）であった。ちなみに、1996年の第1回調査では、それぞれ0.7%（0.4%、0.7%、0.8%）と0.3%（0.3%、0.3%、0.3%）であり、全体では0.5%（0.4%、0.5%、0.6%）であった。単純に比較すれば、この2年間で中学生

	飲んだこと なし	飲酒経験あり						全 体
		冠婚葬祭	家で家族と	その他 家族と	クラス会	仲間と	一人で	
男 性								
1年生	3684 (31.4)	4368 (37.2)	4568 (38.9)	1757 (15.0)	605 (5.2)	724 (6.2)	738 (6.3)	11744 (100.0)
2年生	3057 (24.6)	5340 (43.0)	5373 (43.3)	2352 (18.9)	985 (7.9)	1518 (12.2)	1286 (10.4)	12415 (100.0)
3年生	2478 (19.7)	5742 (45.6)	5959 (47.4)	2794 (22.2)	1730 (13.8)	2594 (20.6)	2099 (16.7)	12581 (100.0)
男性計	9219 (25.1)	15450 (42.1)	15900 (43.3)	6903 (18.8)	3320 (9.0)	4836 (13.2)	4123 (11.2)	36740 (100.0)
χ^2	447.98008	184.93770	177.45441	209.37868	574.16770	1124.49086	673.44337	
df	2	2	2	2	2	2	2	
p	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	
女 性								
1年生	4298 (38.1)	3911 (34.7)	4377 (38.8)	1525 (13.5)	398 (3.5)	514 (4.6)	539 (4.8)	11282 (100.0)
2年生	3722 (31.5)	4463 (37.7)	5380 (45.5)	2022 (17.1)	665 (5.6)	1132 (9.6)	821 (6.9)	11834 (100.0)
3年生	3289 (27.5)	4702 (39.4)	5747 (48.1)	2228 (18.7)	1226 (10.3)	1824 (15.3)	1088 (9.1)	11940 (100.0)
女性計	11309 (32.3)	13076 (37.3)	15504 (44.2)	5775 (16.5)	2289 (6.5)	3470 (9.9)	2448 (7.0)	35056 (100.0)
χ^2	303.16767	56.43029	216.03781	116.37731	456.05143	749.72943	167.85970	
df	2	2	2	2	2	2	2	
p	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	
全 体								
1年生	7982 (34.7)	8279 (36.0)	8945 (38.8)	3282 (14.3)	1003 (4.4)	1238 (5.4)	1277 (5.5)	23026 (100.0)
2年生	6779 (28.0)	9803 (40.4)	10753 (44.3)	4374 (18.0)	1650 (6.8)	2650 (10.9)	2107 (8.7)	24249 (100.0)
3年生	5767 (23.5)	10444 (42.6)	11706 (47.7)	5022 (20.5)	2956 (12.1)	4418 (18.0)	3187 (13.0)	24521 (100.0)
全 体	20528 (28.6)	28526 (39.7)	31404 (43.7)	12678 (17.7)	5609 (7.8)	8306 (11.6)	6571 (9.2)	71796 (100.0)
χ^2	737.79645	225.82578	386.90881	320.30225	1029.00306	1869.40445	802.37642	
df	2	2	2	2	2	2	2	
p	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	.00000	

表 51 飲酒の生涯経験率

の大麻乱用に関する生涯経験率は増加したことになる。しかし、1996年の第1回調査同様に、男女共に、全ての学年で、無回答の者の割合が経験者の割合を上回っており、相変わらず信頼性には疑問が残る。今回も、あくまでも参考データとして提供した。(第1回調査では、この設問で「大麻(マリファナ、ハシッシ、チョコ、ハッパも同じものです)」との注を入れたことが災いし、「お菓子としての『チョコ』を食べたことがあると記載した者もいたため、今回は(マリファナ、ハシッシ、ハッパも同じものです)と注を変更した。)

(2) 「シンナー遊び」と大麻乱用との関係

「シンナー遊び」の経験と大麻乱用の経験との関係を表55に示した。

結果には男女ともに有意差 ($p < 0.01$) が認められ、「シンナー遊び」未経験者では、男子で0.4%、女子で0.2%の者が大麻乱用の経験があると答えたのに対して、経験者群では、男子で25.1%、女子で27.5%の者が大麻乱用の経験があると答えた。

この結果は、1996年の第1回調査での「シンナー遊び」未経験者での男女、及び経験者での男子

	飲んだこと なし	飲酒経験あり						全 体
		冠婚葬祭	家で家族と	その他 家族と	クラス会	仲間と	一人で	
「シナ-」経験								
男 性								
なし	9137 (25.5)	15060 (42.1)	15467 (43.2)	6642 (18.6)	3097 (8.7)	4527 (12.7)	3819 (10.7)	35783 (100.0)
あり	43 (6.8)	290 (46.1)	315 (50.1)	204 (32.4)	181 (28.8)	265 (42.1)	260 (41.3)	629 (100.0)
無回答	39 (11.9)	100 (30.5)	118 (36.0)	57 (17.4)	42 (12.8)	44 (13.4)	44 (13.4)	328 (100.0)
男性計	9219 (25.1)	15450 (42.1)	15900 (43.3)	6903 (18.8)	3320 (9.0)	4836 (13.2)	4123 (11.2)	36740 (100.0)
χ^2	113.73476	4.09226	11.82858	77.89858	305.48040	470.02601	584.24564	
df	1	1	1	1	1	1	1	
p	.00000	.04308	.00058	.00000	.00000	.00000	.00000	
女 性								
なし	11255 (32.6)	12870 (37.2)	15280 (44.2)	5668 (16.4)	2172 (6.3)	3281 (9.5)	2296 (6.6)	34560 (100.0)
あり	28 (8.6)	154 (47.1)	170 (52.0)	91 (27.8)	99 (30.3)	166 (50.8)	136 (41.6)	327 (100.0)
無回答	26 (15.4)	52 (30.8)	54 (32.0)	16 (9.5)	18 (10.7)	23 (13.6)	16 (9.5)	169 (100.0)
女性計	11309 (32.3)	13076 (37.3)	15504 (44.2)	5775 (16.5)	2289 (6.5)	3470 (9.9)	2448 (7.0)	35056 (100.0)
χ^2	85.18084	13.44818	7.93609	30.69654	306.34877	619.65363	610.03136	
df	1	1	1	1	1	1	1	
p	.00000	.00025	.00485	.00000	.00000	.00000	.00000	
全 体								
なし	20392 (29.0)	27930 (39.7)	30747 (43.7)	12310 (17.5)	5269 (7.5)	7808 (11.1)	6115 (8.7)	70343 (100.0)
あり	71 (7.4)	444 (46.4)	485 (50.7)	295 (30.9)	280 (29.3)	431 (45.1)	396 (41.4)	956 (100.0)
無回答	65 (13.1)	152 (30.6)	172 (34.6)	73 (14.7)	60 (12.1)	67 (13.5)	60 (12.1)	497 (100.0)
全 体	20528 (28.6)	28526 (39.7)	31404 (43.7)	12678 (17.7)	5609 (7.8)	8306 (11.6)	6571 (9.2)	71796 (100.0)
χ^2	213.16151	17.87321	18.89344	115.63624	624.44691	1065.80380	1217.58154	
df	1	1	1	1	1	1	1	
p	.00000	.00002	.00001	.00000	.00000	.00000	.00000	

表 52 「シンナー遊び」の経験と飲酒の経験・機会 (複数回答)

	なし	あり	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	24813 (69.3)	10661 (29.8)	309 (.9)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	139 (22.1)	479 (76.2)	11 (1.7)	629 (100.0)
無回答	97 (29.6)	135 (41.2)	96 (29.3)	328 (100.0)
男性計	25049 (68.2)	11275 (30.7)	416 (1.1)	36740 (100.0)
			$(\chi^2=641.03938, df=1, p=.00000)$	
女 性				
「シナ-」経験・なし	28537 (82.6)	5810 (16.8)	213 (.6)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	82 (25.1)	243 (74.3)	2 (.6)	327 (100.0)
無回答	78 (46.2)	43 (25.4)	48 (28.4)	169 (100.0)
女性計	28697 (81.9)	6096 (17.4)	263 (.8)	35056 (100.0)
			$(\chi^2=747.80304, df=1, p=.00000)$	
全 体				
「シナ-」経験・なし	53350 (75.8)	16471 (23.4)	522 (.7)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	221 (23.1)	722 (75.5)	13 (1.4)	956 (100.0)
無回答	175 (35.2)	178 (35.8)	144 (29.0)	497 (100.0)
全 体	53746 (74.9)	17371 (24.2)	679 (.9)	71796 (100.0)
			$(\chi^2=1419.55268, df=1, p=.00000)$	

表 53 「シンナー遊び」の経験と喫煙経験との関係

	1年生	2年生	3年生	全 体
男 性				
なし	11441 (97.4)	12103 (97.5)	12269 (97.5)	35813 (97.5)
あり	87 (.7)	102 (.8)	129 (1.0)	318 (.9)
無回答	216 (1.8)	210 (1.7)	183 (1.5)	609 (1.7)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
			$(\chi^2=6.00997, df=2, p=.04954)$	
女 性				
なし	11094 (98.3)	11662 (98.5)	11799 (98.8)	34555 (98.6)
あり	53 (.5)	50 (.4)	56 (.5)	159 (.5)
無回答	135 (1.2)	122 (1.0)	85 (.7)	342 (1.0)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
			$(\chi^2=.37655, df=2, p=.82839)$	
全 体				
なし	22535 (97.9)	23765 (98.0)	24068 (98.2)	70368 (98.0)
あり	140 (.6)	152 (.6)	185 (.8)	477 (.7)
無回答	351 (1.5)	332 (1.4)	268 (1.1)	951 (1.3)
全 体	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
			$(\chi^2=4.47331, df=2, p=.10682)$	

表 54 大麻乱用の生涯経験率

	なし	あり	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	35177 (98.3)	148 (.4)	458 (1.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	453 (72.0)	158 (25.1)	18 (2.9)	629 (100.0)
無回答	183 (55.8)	12 (3.7)	133 (40.5)	328 (100.0)
男性計	35813 (97.5)	318 (.9)	609 (1.7)	36740 (100.0)
			$(\chi^2 = 4604.25803, df=1, p=.00000)$	
女 性				
「シナ-」経験・なし	34210 (99.0)	66 (.2)	284 (.8)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	228 (69.7)	90 (27.5)	9 (2.8)	327 (100.0)
無回答	117 (69.2)	3 (1.8)	49 (29.0)	169 (100.0)
女性計	34555 (98.6)	159 (.5)	342 (1.0)	35056 (100.0)
			$(\chi^2 = 5545.70256, df=1, p=.00000)$	
全 体				
「シナ-」経験・なし	69387 (98.6)	214 (.3)	742 (1.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	681 (71.2)	248 (25.9)	27 (2.8)	956 (100.0)
無回答	300 (60.4)	15 (3.0)	182 (36.6)	497 (100.0)
全 体	70368 (98.0)	477 (.7)	951 (1.3)	71796 (100.0)
			$(\chi^2 = 9809.64268, df=1, p=.00000)$	

表 55 「シンナー遊び」の経験と大麻乱用の経験

	吸うべきで ない	少々なら かまわない	まったく かまわない	無回答	全 体
男 性					
「シナ-」経験・なし	33424 (93.4)	905 (2.5)	998 (2.8)	456 (1.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	359 (57.1)	80 (12.7)	166 (26.4)	24 (3.8)	629 (100.0)
無回答	236 (72.0)	17 (5.2)	15 (4.6)	60 (18.3)	328 (100.0)
男性計	34019 (92.6)	1002 (2.7)	1179 (3.2)	540 (1.5)	36740 (100.0)
				$(\chi^2 = 1437.69254, df=2, p=.00000)$	
女 性					
「シナ-」経験・なし	32949 (95.3)	788 (2.3)	521 (1.5)	302 (.9)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	172 (52.6)	59 (18.0)	85 (26.0)	11 (3.4)	327 (100.0)
無回答	129 (76.3)	12 (7.1)	5 (3.0)	23 (13.6)	169 (100.0)
女性計	33250 (94.8)	859 (2.5)	611 (1.7)	336 (1.0)	35056 (100.0)
				$(\chi^2 = 1550.00394, df=2, p=.00000)$	
全 体					
「シナ-」経験・なし	66373 (94.4)	1693 (2.4)	1519 (2.2)	758 (1.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	531 (55.5)	139 (14.5)	251 (26.3)	35 (3.7)	956 (100.0)
無回答	365 (73.4)	29 (5.8)	20 (4.0)	83 (16.7)	497 (100.0)
全 体	67269 (93.7)	1861 (2.6)	1790 (2.5)	876 (1.2)	71796 (100.0)
				$(\chi^2 = 2972.66390, df=2, p=.00000)$	

表 56 大麻を吸うことをどう思いますか？

の結果とほとんど同じであるが、「シンナー遊び」経験者女子での割合は、1996年の20%から、かなりの増加を示している。注意を要するところである。

(3) 大麻吸引に対する意識について

「大麻を吸うことをどう思いますか？」との問いに対する回答の分布を表56に示した。

回答の分布には、男女共に有意差 ($p < 0.01$) が認められた。「シンナー遊び」未経験者群では、男子で 93%、女子で 95%の者が「吸うべきではないと思う」を選んだのに対して、「シンナー遊び」経験者群では、それを選んだ者は、男子で 57%、女子で 53%であり、男女共に 26%の者が「まったくかまわないと思う」を選択した。

これについては、「シンナー遊び」、喫煙、飲酒、大麻吸引、覚せい剤使用に対する意識の比較として、考察で論じたい。

(4) 大麻吸引による医学的害について

「大麻を吸うと、精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表57に示した。

回答の分布には、男子では有意差 ($p < 0.01$) が認められたが、女子では認められなかった。しかし、男女共に、「知っている」を選んだ者は、「シンナー遊び」経験者群の方が多という結果であった。これは有機溶剤乱用による医学的害(表14～18)の場合と同じであり、知識教育上の課題になると考えられる。

4. 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用との関係

(1) 覚せい剤乱用の生涯経験率について

覚せい剤乱用の生涯経験率(これまでに1回でも経験したことのある率)を表58に示した。

覚せい剤の生涯経験率は、男子では0.7% (1年生0.5%、2年生0.7%、3年生0.8%)で、女子では0.3% (1年生0.2%、2年生0.3%、3年生0.4%)であった。学年による有意差は男女共に認められた ($p < 0.05$)。ちなみに1996年の第1回調査⁹⁾では、男子

	知っている	知らない	無回答	全体
男 性				
「シナ-」経験・なし	17215 (48.1)	17544 (49.0)	1024 (2.9)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	329 (52.3)	251 (39.9)	49 (7.8)	629 (100.0)
無回答	101 (30.8)	168 (51.2)	59 (18.0)	328 (100.0)
男性計	17645 (48.0)	17963 (48.9)	1132 (3.1)	36740 (100.0)
			($\chi^2 = 11.82153$, $df=1$, $p = .00059$)	
女 性				
「シナ-」経験・なし	16044 (46.4)	18042 (52.2)	474 (1.4)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	163 (49.8)	150 (45.9)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	62 (36.7)	85 (50.3)	22 (13.0)	169 (100.0)
女性計	16269 (46.4)	18277 (52.1)	510 (1.5)	35056 (100.0)
			($\chi^2 = 3.12122$, $df=1$, $p = .07728$)	
全 体				
「シナ-」経験・なし	33259 (47.3)	35586 (50.6)	1498 (2.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	492 (51.5)	401 (41.9)	63 (6.6)	956 (100.0)
無回答	163 (32.8)	253 (50.9)	81 (16.3)	497 (100.0)
全 体	33914 (47.2)	36240 (50.5)	1642 (2.3)	71796 (100.0)
			($\chi^2 = 16.25130$, $df=1$, $p = .00006$)	

表57 大麻を吸うと精神病状態や無動機症候群になることがあるのを知っていますか？

	1年生	2年生	3年生	全 体
男 性				
なし	11460 (97.6)	12132 (97.7)	12281 (97.6)	35873 (97.6)
あり	60 (.5)	81 (.7)	104 (.8)	245 (.7)
無回答	224 (1.9)	202 (1.6)	196 (1.6)	622 (1.7)
男性計	11744 (100.0)	12415 (100.0)	12581 (100.0)	36740 (100.0)
			$(\chi^2=9.07116, df=2, p=.01072)$	
女 性				
なし	11139 (98.7)	11667 (98.6)	11783 (98.7)	34589 (98.7)
あり	26 (.2)	35 (.3)	51 (.4)	112 (.3)
無回答	117 (1.0)	132 (1.1)	106 (.9)	355 (1.0)
女性計	11282 (100.0)	11834 (100.0)	11940 (100.0)	35056 (100.0)
			$(\chi^2=7.31441, df=2, p=.02580)$	
全 体				
なし	22599 (98.1)	23799 (98.1)	24064 (98.1)	70462 (98.1)
あり	86 (.4)	116 (.5)	155 (.6)	357 (.5)
無回答	341 (1.5)	334 (1.4)	302 (1.2)	977 (1.4)
全 体	23026 (100.0)	24249 (100.0)	24521 (100.0)	71796 (100.0)
			$(\chi^2=16.15665, df=2, p=.00031)$	

表 58 覚せい剤の乱用経験（生涯経験率）

	なし	あり	無回答	全 体
男 性				
「シナ-」経験・なし	35205 (98.4)	99 (.3)	479 (1.3)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	469 (74.6)	140 (22.3)	20 (3.2)	629 (100.0)
無回答	199 (60.7)	6 (1.8)	123 (37.5)	328 (100.0)
男性計	35873 (97.6)	245 (.7)	622 (1.7)	36740 (100.0)
			$(\chi^2=4669.86341, df=1, p=.00000)$	
女 性				
「シナ-」経験・なし	34228 (99.0)	32 (.1)	300 (.9)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	242 (74.0)	76 (23.2)	9 (2.8)	327 (100.0)
無回答	119 (70.4)	4 (2.4)	46 (27.2)	169 (100.0)
女性計	34589 (98.7)	112 (.3)	355 (1.0)	35056 (100.0)
			$(\chi^2=5734.83582, df=1, p=.00000)$	
全 体				
「シナ-」経験・なし	69433 (98.7)	131 (.2)	779 (1.1)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	711 (74.4)	216 (22.6)	29 (3.0)	956 (100.0)
無回答	318 (64.0)	10 (2.0)	169 (34.0)	497 (100.0)
全 体	70462 (98.1)	357 (.5)	977 (1.4)	71796 (100.0)
			$(\chi^2=9976.48665, df=1, p=.00000)$	

表 59 「シンナー遊び」の経験と覚せい剤乱用経験との関係

では0.4%（1年生0.3%、2年生0.4%、3年生0.5%）で、女子では0.2%（1年生0.3%、2年生0.2%、3年生0.3%）であった。単純に比較すれば、この2年間で、中学生の覚せい剤乱用に関する生涯経験率は増加したことになる。しかし、1996年の第1回調査同様に、男女共に、全ての学年で、無回答の者の割合が経験者の割合を上回っており、相変わらず信頼性には疑問が残る。今回も、あくまでも参考データとして提供した。

なお、1996年の第1回調査では、設問に「覚せい剤（スピード、エス、アイスも同じものです）」と注をつけたのが災いして、「お菓子としての『アイス』を食べたことがある」と記載した者がいたため、今回は（スピード、エスも同じものです）との注に変更した。

(4) 「シンナー遊び」と覚せい剤乱用経験との関係

「シンナー遊び」の経験と覚せい剤乱用経験との関係を表59に示した。

「シンナー遊び」未経験者では、覚せい剤乱用の経験があると選んだ者は、男子で0.3%、女子で0.1%、全体で0.2%であったのに対して、「シンナー遊び」経験者では、男子で22.3%、女子で23.2%の者が、覚せい剤の乱用経験ありを選んだ。

ちなみに、1996年の第1回調査では、覚せい剤の乱用経験ありを選んだ「シンナー遊び」経験者は、男子で15.7%、女子で18.0%であり、いずれも今回の方が高い。

(5) 覚せい剤乱用による医学的害について

「覚せい剤を使うと、精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？」との問いに対する回答の分布を表60に示した。

回答の分布には、男子では有意差（ $p < 0.01$ ）が認められたが、女子では認められなかった。しかし、男女共に、「知っている」を選んだ者は、「シンナー遊び」経験者群の方が多という結果であった。これは有機溶剤乱用による医学的害（表14

	知っている	知らない	無回答	全体
男 性				
「シナ-」経験・なし	19323 (54.0)	15966 (44.6)	494 (1.4)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	366 (58.2)	236 (37.5)	27 (4.3)	629 (100.0)
無回答	106 (32.3)	174 (53.0)	48 (14.6)	328 (100.0)
男性計	19795 (53.9)	16376 (44.6)	569 (1.5)	36740 (100.0)
				($\chi^2 = 8.72234$, $df=1$, $p=.00314$)
女 性				
「シナ-」経験・なし	20029 (58.0)	14287 (41.3)	244 (.7)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	185 (56.6)	136 (41.6)	6 (1.8)	327 (100.0)
無回答	66 (39.1)	85 (50.3)	18 (10.7)	169 (100.0)
女性計	20280 (57.9)	14508 (41.4)	268 (.8)	35056 (100.0)
				($\chi^2 = .07050$, $df=1$, $p=.79061$)
全 体				
「シナ-」経験・なし	39352 (55.9)	30253 (43.0)	738 (1.0)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	551 (57.6)	372 (38.9)	33 (3.5)	956 (100.0)
無回答	172 (34.6)	259 (52.1)	66 (13.3)	497 (100.0)
全 体	40075 (55.8)	30884 (43.0)	837 (1.2)	71796 (100.0)
				($\chi^2 = 3.70362$, $df=1$, $p=.05429$)

表 60 覚せい剤を使うと、精神病状態になりやすく、またフラッシュバックがあることを知っていますか？

～18)、大麻吸引による医学的害(表57)の場合と同じであり、知識教育上の課題になると考えられる。

5. 違法薬物の入手可能性について

(1) 乱用のための有機溶剤の入手可能性について

乱用のための有機溶剤の入手可能性についての回答の分布を表61に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で41%、女子で34%であり、経験者群では、男子で72%、女子で73%と、両群には有意差(p<0.01)が認められた。

(2) 大麻の入手可能性について

大麻の入手可能性についての回答の分布を表62に示した。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で23%、女子で21%であり、経験者群では、男子で51%、女子で50%であり、両群には有意差(p<0.01)が認められた。

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で23%、女子で21%であり、経験者群では、男子で51%、女子で50%であり、両群には有意差(p<0.01)が認められた。

(3) 覚せい剤の入手可能性について

「簡単に手に入る」「少々苦勞するが、なんとか手に入る」を選んだの者の合計は、「シンナー遊び」未経験者群では、男子で24%、女子で23%であり、経験者群では、男女共に51%であり、両群には有意差(p<0.01)が認められた。

「シンナー遊び」経験者群でのこの値は、大麻の入手可能性の値と同じか、むしろ高めである。

以上、3つの違法性薬物の入手可能性については、考察で論じたい。

D. 考察

1. 本調査研究の位置づけ

	簡単に手に入る	少々苦勞するが手に入る	ほとんど不可能	絶対不可能	無回答	全体
男 性						
「シナ-」経験・なし	8174 (22.8)	6548 (18.3)	7103 (19.9)	12883 (36.0)	1075 (3.0)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	333 (52.9)	123 (19.6)	61 (9.7)	92 (14.6)	20 (3.2)	629 (100.0)
無回答	68 (20.7)	47 (14.3)	49 (14.9)	89 (27.1)	75 (22.9)	328 (100.0)
男性計	8575 (23.3)	6718 (18.3)	7213 (19.6)	13064 (35.6)	1170 (3.2)	36740 (100.0)
				(χ ² =352.47181, df=3, p=.00000)		
女 性						
「シナ-」経験・なし	5027 (14.5)	6750 (19.5)	7026 (20.3)	14819 (42.9)	938 (2.7)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	164 (50.2)	73 (22.3)	24 (7.3)	52 (15.9)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	13 (7.7)	32 (18.9)	30 (17.8)	63 (37.3)	31 (18.3)	169 (100.0)
女性計	5204 (14.8)	6855 (19.6)	7080 (20.2)	14934 (42.6)	983 (2.8)	35056 (100.0)
				(χ ² =365.36667, df=3, p=.00000)		
全 体						
「シナ-」経験・なし	13201 (18.8)	13298 (18.9)	14129 (20.1)	27702 (39.4)	2013 (2.9)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	497 (52.0)	196 (20.5)	85 (8.9)	144 (15.1)	34 (3.6)	956 (100.0)
無回答	81 (16.3)	79 (15.9)	79 (15.9)	152 (30.6)	106 (21.3)	497 (100.0)
全 体	13779 (19.2)	13573 (18.9)	14293 (19.9)	27998 (39.0)	2153 (3.0)	71796 (100.0)
				(χ ² =750.36487, df=3, p=.00000)		

表61 有機溶剤の入手可能性

	簡単に 手に入る	苦勞するが 手に入る	ほとんど 不可能	絶対不可能	無回答	全 体
男 性						
「シナ-」経験・なし	2720 (7.6)	5410 (15.1)	8562 (23.9)	18079 (50.5)	1012 (2.8)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	161 (25.6)	157 (25.0)	114 (18.1)	178 (28.3)	19 (3.0)	629 (100.0)
無回答	32 (9.8)	46 (14.0)	66 (20.1)	112 (34.1)	72 (22.0)	328 (100.0)
男性計	2913 (7.9)	5613 (15.3)	8742 (23.8)	18369 (50.0)	1103 (3.0)	36740 (100.0)
	($\chi^2=362.45730$, $df=3$, $p=.00000$)					
女 性						
「シナ-」経験・なし	1796 (5.2)	5409 (15.7)	7744 (22.4)	18730 (54.2)	881 (2.5)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	80 (24.5)	82 (25.1)	71 (21.7)	80 (24.5)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	10 (5.9)	18 (10.7)	37 (21.9)	72 (42.6)	32 (18.9)	169 (100.0)
女性計	1886 (5.4)	5509 (15.7)	7852 (22.4)	18882 (53.9)	927 (2.6)	35056 (100.0)
	($\chi^2=300.24681$, $df=3$, $p=.00000$)					
全 体						
「シナ-」経験・なし	4516 (6.4)	10819 (15.4)	16306 (23.2)	36809 (52.3)	1893 (2.7)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	241 (25.2)	239 (25.0)	185 (19.4)	258 (27.0)	33 (3.5)	956 (100.0)
無回答	42 (8.5)	64 (12.9)	103 (20.7)	184 (37.0)	104 (20.9)	497 (100.0)
全 体	4799 (6.7)	11122 (15.5)	16594 (23.1)	37251 (51.9)	2030 (2.8)	71796 (100.0)
	($\chi^2=682.96736$, $df=3$, $p=.00000$)					

表 62 大麻の入手可能性

	簡単に 手に入る	苦勞するが 手に入る	ほとんど 不可能	絶対不可能	無回答	全 体
男 性						
「シナ-」経験・なし	3058 (8.5)	5386 (15.1)	8012 (22.4)	18377 (51.4)	950 (2.7)	35783 (100.0)
「シナ-」経験・あり	179 (28.5)	143 (22.7)	115 (18.3)	174 (27.7)	18 (2.9)	629 (100.0)
無回答	32 (9.8)	34 (10.4)	59 (18.0)	131 (39.9)	72 (22.0)	328 (100.0)
男性計	3269 (8.9)	5563 (15.1)	8186 (22.3)	18682 (50.8)	1040 (2.8)	36740 (100.0)
	($\chi^2=373.25923$, $df=3$, $p=.00000$)					
女 性						
「シナ-」経験・なし	2301 (6.7)	5452 (15.8)	7273 (21.0)	18731 (54.2)	803 (2.3)	34560 (100.0)
「シナ-」経験・あり	85 (26.0)	83 (25.4)	57 (17.4)	88 (26.9)	14 (4.3)	327 (100.0)
無回答	11 (6.5)	19 (11.2)	35 (20.7)	74 (43.8)	30 (17.8)	169 (100.0)
女性計	2397 (6.8)	5554 (15.8)	7365 (21.0)	18893 (53.9)	847 (2.4)	35056 (100.0)
	($\chi^2=247.39509$, $df=3$, $p=.00000$)					
全 体						
「シナ-」経験・なし	5359 (7.6)	10838 (15.4)	15285 (21.7)	37108 (52.8)	1753 (2.5)	70343 (100.0)
「シナ-」経験・あり	264 (27.6)	226 (23.6)	172 (18.0)	262 (27.4)	32 (3.3)	956 (100.0)
無回答	43 (8.7)	53 (10.7)	94 (18.9)	205 (41.2)	102 (20.5)	497 (100.0)
全 体	5666 (7.9)	11117 (15.5)	15551 (21.7)	37575 (52.3)	1887 (2.6)	71796 (100.0)
	($\chi^2=646.55649$, $df=3$, $p=.00000$)					

表 63 覚せい剤の入手可能性

わが国の中学生における「シンナー遊び」の広がりについての調査研究で、地域特性を考慮して行われた大規模なものとしては、当分担研究者の知る限り、1990年に当分担研究者らによって千葉県公立中学校12校5,240人を対象に行われた調査研究⁴⁾、その後の厚生科学研究費補助金による一連の調査研究（千葉県の公立中学校14校6,121人、1992年）¹²⁾、（関東地方一都六県公立中学校12校7,166人、1993年）¹³⁾、（千葉県の公立中学校15校6,795人、及び西日本のA県B市の全12校の全中学生6,358人、1994年）¹¹⁾、1996年の第1回本全国調査⁹⁾に限られている。

また、上記一連の調査研究をもとに、当分担研究者は、従来「シンナー遊び」経験者は母子家庭を中心に、「欠損家庭」（最近では「単親家庭」と呼ぶ傾向が強まっている）「崩壊家庭」の子供に多いことが指摘されてきたが、一見問題なさそうな家庭の子供における「シンナー遊び」が、近年目につくようになってきたという臨床経験に対して、夕食頻度等の結果から、たとえ両親がそろっていても、質的に家庭の団らんが少ない「精神的欠損家庭」⁴⁾¹⁶⁾とでも言うべき家庭の子供に「シンナー遊び」経験者が少なからずいることを示唆

してきた¹⁶⁾。

今回の調査研究は、上記一連の調査研究を継続表発展させたものであり、わが国では薬物乱用に関する第2回目の全国中学生調査である。

2. 「シンナー遊び」の広がりについて

今回の調査研究では、「シンナー遊び」の生涯経験率は、男子では1.7%（1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%）、女子では0.9%（1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%）、全体では1.3%（1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%）であった。この結果は、1996年に実施した第1回全国調査の結果（男子で1.4%、女子で0.7%、全体で1.1%）よりは高い値である。したがって、今回の結果を単純に比べると、1996年以降、中学生における「シンナー遊び」生涯経験率は上昇したことになる。

しかし、この種の調査で最も問題になるのは、結果の信頼性であろう。この信頼性は、自記式調査と同時に、何らかの客観的検査（たとえば尿からの馬尿酸の測定）を実施することによって、初めて明らかになることである。しかしながら、尿検査の実施は、個人の人権上の問題にも関わる難

	1990年 ⁴⁾	1992年 ¹²⁾	1994年 ¹¹⁾	1996年 ⁹⁾	今回	1996年 ⁹⁾	今回
男 性	2.1	2.5	1.8	1.5	1.7	1.4	1.7
1年生	1.2	1.8	1.0	1.4	0.8	1.1	1.2
2年生	2.9	3.5	2.2	1.3	1.8	1.3	1.6
3年生	2.3	2.0	2.3	1.9	2.6	1.7	2.3
女 性	0.9	1.2	1.1	0.8	0.6	0.7	0.9
1年生	0.4	0.9	1.0	0.6	0.7	0.7	0.9
2年生	0.8	1.2	1.2	0.6	0.7	0.6	0.8
3年生	1.7	1.5	1.1	1.2	0.3	0.7	1.1
全 体	1.5	1.8	1.5	1.2	1.2	1.1	1.3
1年生	0.8	1.4	1.0	1.0	0.8	0.9	1.1
2年生	1.9	2.4	1.7	1.0	1.2	1.0	1.2
3年生	1.9	1.8	1.7	1.6	1.4	1.3	1.7
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表64 「シンナー遊び」生涯経験率の推移 (%)

しい方法であり、実施は事実上不可能である。したがって、当研究者らは、類似した方法論にもとづく継続的な調査の結果によるトレンドを見ることが、本調査研究の主目的であると考えている。同時に「シンナー遊び」の広がりが増減を判断するには、生涯経験率だけではなく、いくつかの関連する指標の結果をも考慮して、総合的に判断する必要があると考えている。

表64は、今回及び第1回全国調査の結果と千葉県での同種の一連の調査結果の比較表である。今回の調査による全国の生涯経験率は、1996年の第1回全国調査よりは確かに上昇している。しかし、1990年から本調査を継続している千葉県では、1996年との比較上は、男子では1.5%から1.7%に増加したが、女子では0.8%から0.6%に低下し、全体では、1.2%のままであり、全くの横這い状態である。

一方、「シンナー遊び」を目撃したことのある率（目撃率：表65）、身近に「シンナー遊び」をしている人がいる率（乱用者を知っている率：表66）、「シンナー遊び」に誘われたことのある率（誘われ経験率：表67）は、中学生にとっての「シンナー遊び」の身近さを示す重要な指標である。これらは全て、男女ともに、学年が進むにしたがって率が高くなっており、先の生涯経験率と表裏一

体の関係にある。本研究者らは、この目撃率、乱用者を知っている率、誘われ経験率が、「シンナー遊び」の広がりを間接的に反映する指標になると考えている。

今回の全国調査の結果では、第1回全国調査との比較では、目撃率（表65）に関しては低下している（11.8%から10.3%）が、「経験者がいる」率は微増傾向を示し（5.2%から5.4%）、「誘われた」率は横這い状態を示している（1.6%のまま）。

一方、千葉県の推移では、男子での「誘われた」率（表67）が微増した以外は、すべて明らかに低下している。

また、これは、生涯経験率にも関係する重要要素であるが、表1に示した各都道府県での実施率が無視できない。

前回（1996年）の第1回全国調査では、全国での回答率（学校数で）は58.1%であり、しかも、回答をまったくいただけなかった府県が8つあり、その中には、人口10万人当たりの覚せい剤取締法違反検挙者数が全国平均よりも高い¹⁸⁾府県が4つ含まれていた。その点、今回の調査では、全国での回答率が71.2%と増加し、同時に、回答を全くいただけなかった県が2つだけ（しかも、この2県は、人口10万人当たりの覚せい剤取締法違

	1990年 ⁹⁾	1992年 ¹²⁾	1994年 ¹¹⁾	1996年 ⁹⁾	今回	1996年 ⁹⁾	今回
男 性	27.5	24.6	19.0	16.5	9.9	12.2	10.7
1年生	23.8	21.6	17.1	12.6	6.3	9.9	8.7
2年生	26.5	18.5	19.1	17.5	9.6	12.6	9.9
3年生	31.7	21.9	20.6	19.0	13.4	14.1	13.3
女 性	27.9	20.1	16.2	15.2	7.5	11.4	9.8
1年生	22.0	17.0	12.7	11.9	6.7	9.1	8.3
2年生	27.9	13.6	17.3	15.0	7.6	12.0	9.5
3年生	32.2	16.9	18.5	18.6	8.1	13.0	11.5
全 体	27.7	22.3	17.6	15.8	8.7	11.8	10.3
1年生	22.9	19.3	15.0	12.2	6.5	9.5	8.5
2年生	27.1	16.1	18.1	16.3	8.6	12.3	9.7
3年生	32.0	19.4	19.5	18.8	10.7	13.6	12.4
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表65 「シンナー遊び」を実際に見たことがある者の率（%）

反検挙者数が全国平均よりも低い¹⁰⁾県である)であった点は、今回の結果を1996年の第1回調査の結果と比較する際には考慮すべき点であろうと考えている。

したがって、表64～表67を総合的に判断した場合、わが国における中学生の「シンナー遊び」の広がり、1996年に比べて、横這いであると解釈するのが妥当であろうと思われる。

ただし、わが国における有機溶剤乱用の広がり、の勢いを推定するためには、犯罪白書⁹⁾による「毒物及び劇物取締法」違反者数および「薬物関連精神疾患に関する全国精神病院調査」の結果¹⁾をも参考にする必要がある。

犯罪白書⁹⁾によれば、毒物及び劇物取締法違反による送致件数は、1982年の36,796人をピークに減少し始め、1989年～1991年には27,000人～29,000人台の「横這い状態」にあったが、1992年には21,603人とさらに減少し、その後も減少を続け、1997年には7,415人となっている。また、「薬物関連精神疾患に関する全国精神病院調査」¹⁾でも、1991年に覚せい剤を抜いて原因薬物のトップになった有機溶剤が、1993年以降は覚せい剤に次ぐ第2位となり、その後は第2位を保ちながらも大きく

低下し、1996年には、その割合は覚せい剤の56%に対して、23%となっており、どうやら、1992年ないしは1993年以降、有機溶剤の乱用は減少傾向にある(厳密には、かつてほどの流行の勢いはない)ようである。

しかし、警察庁生活安全局少年課による「少年非行等の概要(平成10年1～12月)」によれば、1998年の「シンナー等の摂取・所持で補導した犯罪少年は、4,496人で、前年に比べ339人(8.2%)増加し、平成2年以来8年ぶりの増加」となっている。人数的には、1995年の5,456人よりは少ないが、1996年の4,489人を少々上回った数であり、有機溶剤乱用が、再度増加し始めている可能性が危惧される。

したがって、今回の全国の生涯経験率の微増は、上記を反映している可能性もあり、有機溶剤乱用の動向には、これまで以上の注意が必要である。

また、この1年間での有機溶剤乱用経験率(1年経験率)については、これまでの一連の調査研究⁴⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾でも、論評をしてこなかったが、それは結果の数字が非常に小さく、無回答の者の方が常に多いという結果であったからである。これは今回についても同じであり、あくまでも参考資料と

	1990年 ⁴⁾	1992年 ¹²⁾	1994年 ¹¹⁾	1996年 ⁹⁾	今回	1996年 ⁹⁾	今回
男性	9.4	8.0	4.6	9.1	3.7	4.8	5.0
1年生	5.6	7.0	3.7	7.0	2.3	3.5	3.4
2年生	10.4	4.2	4.2	10.8	3.6	4.5	4.9
3年生	11.8	8.9	5.7	9.4	5.1	6.4	6.6
女性	14.0	9.0	5.4	7.3	3.6	5.6	5.8
1年生	8.2	8.2	3.3	4.8	3.5	3.9	4.1
2年生	14.2	6.0	6.5	8.3	4.1	6.2	5.8
3年生	18.1	9.5	6.5	8.6	3.2	6.8	7.4
全体	11.6	8.5	5.0	8.2	3.6	5.2	5.4
1年生	6.8	7.6	3.5	5.9	2.9	3.7	3.7
2年生	12.2	5.0	5.2	9.5	3.8	5.3	5.3
3年生	14.9	9.2	6.1	9.0	4.2	6.6	7.0
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表66 身近に「シンナー遊び」をしている人がいると答えた者の率 (%)

言うことになる。

3. 「シンナー遊び」と日常生活・家庭生活・友人関係

「シンナー遊び」経験者群と非経験者群との比較では、「起床時間の規則性」(表20)、「就床時間の規則性」(表21)、「朝食の摂取率」(表22)から見た日常生活の規則性、及び「学校生活への思い」(表23)、「クラブ活動の参加状況」(表24)、「親しく遊べる友人の存在」(表31)、「相談事の出来る友人の存在」(表32)において、統計学的有意差が認められており、「シンナー遊び」経験者群での日常生活の不規則さ、学校生活不適応、友人関係の希薄さが明かである。

これらの背景には、そもそもの家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられるが、表25～27に見る家族との夕食頻度の差は、今回の調査でも「シンナー遊び」経験者群と非経験者群とで歴然としている。

同時に、親との相談頻度の低さ(表30)と共に、家庭は「うまくいっていない」と答えた者が経験者群で有意に多い(表28) 事実上、「シンナー遊

び」が家庭のあり方と密接な関係を有していることを裏付けている。

事実、経験者群・非経験者群に関わらず、「シンナー遊び」をする原因として、「家庭に問題がある」(表13)と答えた者が、経験者群では、比較の上では、男女共に最も多い。

ところで、「父親との夕食頻度(表27)」は、「家族全員での夕食頻度(表25)」よりも低率になっており、これは明らかに矛盾であった。しかも、この矛盾は、これまでの同種の調査⁴⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾でも毎回認められており、中学生の考えの中には、「家族全員での夕食」と言った時、父親は既に除外されている傾向がそれなりであることを示唆している。つまり、その背景には、父親はいつも帰りが遅いものだという中学生の考え方を伺うことができる。

そもそも、当研究者らは、夕食には「一家団欒」という意味合いがあると考えて調査項目に入れてきた。しかし、この夕食頻度には地域差が大きく、都市部ほど低く、農村部・山間部ほど高い傾向がある⁴⁾¹²⁾¹³⁾。「一家団欒」には、家族としての精神的意味合いも含まれるが、特に都市部における生活様式の多様性を考慮すると、親子の共有時間に

	1990年 ⁴⁾	1992年 ¹²⁾	1994年 ¹¹⁾	1996年 ⁹⁾	今回	1996年 ⁹⁾	今回
男 性	3.0	3.5	1.9	2.3	2.5	1.7	1.9
1年生	2.0	3.1	0.3	1.0	0.9	1.2	0.9
2年生	3.5	2.1	1.9	2.7	3.0	1.7	1.8
3年生	3.5	3.6	3.5	3.1	3.4	2.4	2.8
女 性	2.2	3.7	1.4	2.0	0.9	1.5	1.4
1年生	0.8	2.7	1.1	1.8	1.1	1.1	0.9
2年生	2.0	1.2	1.1	1.8	0.9	1.6	1.4
3年生	3.3	3.2	2.1	2.3	0.6	1.8	1.9
全 体	2.6	3.6	1.7	2.1	1.7	1.6	1.6
1年生	1.5	2.9	0.7	1.4	1.0	1.1	0.9
2年生	2.8	1.7	1.5	2.3	1.9	1.6	1.6
3年生	3.3	3.4	2.8	2.7	2.0	2.1	2.3
対象	千葉県 12校 5,240人	千葉県 14校 6,121人	千葉県 15校 6,795人	千葉県 8校 4,521人	千葉県 9校 5,362人	全国 108校 54,048人	全国 148校 71,796人

表67 「シンナー遊び」に誘われたことのある率の推移 (%)

ついで、もう少し直接的な項目が必要であると
考えていた。そこで「学校、塾、習い事、運動で
の時間以外、大人が不在の状態、毎日平均どの
程度の時間を過ごしますか？」という項目も調べ
ている（表29）。その結果、「シンナー遊び」非経
験者では一日3時間以上大人不在で過ごす者は約1
4%であるのに対して、「シンナー遊び」経験者群
では約30%にのぼるという結果を得た。

結局、今回も、有機溶剤経験者群は、総体的に
見れば、家庭にも、学校にもなじめず、友人関係
も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供
たち」⁴¹⁾が多いという推定が成り立つ。

表11～表12は「シンナー遊び」をしている者
について、どのような気持ちを持っているのかを見
たものである。表11～12では、経験者群と非経
験者群での捉え方に、明らかな乖離が認められる。
非経験者から見れば、経験者はほとんど「無関係
な人たち（90%以上）であり、経験者から見れば
経験者は「気持ちがわかる」人たちである割合が
非常に高いということである。このことは、経験
者群での「居場所のない子供たち」⁴¹⁾という推
論をさらに支持する結果であると思われる。

有機溶剤乱用者への治療的介入の際に、当研究
者らは、親の参加なくして子の回復はないと考
えており、親子の共有時間を増やすことの重要性
を説いているが⁴¹⁾⁴⁾¹⁶⁾、今回の結果はその理由の有力
な根拠である。

しかも、経験論的には、本調査の結果を保護者
に紹介することが、保護者の意識変革には重要の
ようである。

4. 「シンナー遊び」による医学的害

薬物乱用防止には、薬物乱用による諸害をきち
んと認識させることが重要である。ところが、「知
識」があれば乱用しないかとなると、そうとも
言えない面がある。

有機溶剤乱用による「歯の腐食」（表15）、「無
動機症候群」（表18）、「フラッシュバック」（表19）
についての知識は、男女共に、経験者群の方が知
っているという結果であった。これらは、これま
での一連の同種の調査⁴¹⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾でも認められてお
り、「知識」と「行動」の不一致を改めて確認す
る結果となった。

しかし、従来の調査では、「急性中毒死」（表14）、

「多発神経炎」（表16）、「精神病状態」（表17）に
ついての知識保有率も「シンナー遊び」経験者群
の方が高かった⁴¹⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾のに対して、今回の結果で
は、これらに対しては、「シンナー遊び」非経
験者群の方が知識保有率が高いか、あるいは同程度
であったという結果は、ここ数年間での薬物乱用
防止教育推進の結果の可能性もある。

ただし、個々についての知識保有率が十分かと
いうと、そうとも言えない点もあり、今後も薬物
乱用防止教育を押し進めていく必要がある。

なお、薬物乱用防止教育には、「知識が行動に
結びつくとは限らない」という大きな課題が常に
存在するわけで、これに関しては、薬物依存から
の回復の苦しみをドキュメンタリー形式で紹介し
たビデオ（平成9年度文部省制作「なくした自由」）
の活用が効果的と考えられる。

5. 大麻・覚せい剤の乱用経験

今回の調査では、大麻の生涯経験率は、男子で
0.9%、女子で0.5%、全体で0.7%であり、覚せい
剤の生涯経験率は、男子で0.7%、女子で0.3%、
全体で0.5%であった。1996年の第1回調査では、
それぞれ大麻では、0.7%、0.3%、0.5%であり、
覚せい剤では0.4%、0.2%、0.3%であった。これ
らの結果は、大麻も覚せい剤も生涯経験率は上昇
したと言いたくなるが、そのように結論づけられ
ない点は、数字自体が非常に小さい「シンナー遊
び」のこの1年間での経験率と同様である。

ただし、第3次覚せい剤乱用期と呼ばれるきつ
かを作ったのは高校生であり⁹⁾、1997年には、覚
せい剤取締法により補導された中学生数も倍増し
たことから、今後も嚴重に調べていく必要がある。

6. 違法薬物の入手可能性の比較

1993年以来、一部の外国人を中心に、大麻およ
び覚せい剤が、大都会では路上で密売されるよう
になり、第3次覚せい剤乱用期を作り出した⁹⁾。そ
の影響と思われるが、1996年の1年間に覚せい剤
取締法により検挙された高校生の数は対前年度比
2.3倍と激増した⁹⁾。いくら有機溶剤乱用の勢いが
鈍ったようだと言っても、この現実、わが国の
薬物汚染状況の深刻化以外の何物でもない。

表 68 は、本調査による違法薬物の入手可能性

の比較である。

有機溶剤は日常生活上の必需品であり、その気になれば入手は極めて簡単である。しかし、表 68

の結果は「簡単に手に入る」を選んだ者が、予想外に少ない。どうやら、「シンナー遊び」のための「有機溶剤」という問いの言葉から、トルエン

	簡単に 手に入る	苦勞するが 手に入る	ほとんど 不可能	絶対不可能	無回答	全 体
「シンナー遊び」未経験群 (男子) n=35,783						
有機溶剤	22.8	18.3	19.9	36.0	3.0	100
大麻	7.6	15.1	23.9	50.5	2.8	100
覚せい剤	8.5	15.1	22.4	51.4	2.7	100
「シンナー遊び」未経験群 (女子) n=34,560						
有機溶剤	14.5	19.5	20.3	42.9	2.7	100
大麻	5.2	15.7	22.4	54.2	2.5	100
覚せい剤	6.7	15.8	21.0	54.2	2.3	100
「シンナー遊び」未経験群 (男子+女子) n=70,343						
有機溶剤	18.8	18.9	20.1	39.4	2.9	100
大麻	6.4	15.4	23.2	52.3	2.7	100
覚せい剤	7.6	15.4	21.7	52.8	2.5	100
「シンナー遊び」経験群 (男子) n=629						
有機溶剤	52.9	19.6	9.7	14.6	3.2	100
大麻	25.6	25.0	18.1	28.3	3.0	100
覚せい剤	28.5	22.7	18.3	27.7	2.9	100
「シンナー遊び」経験群 (女子) n=327						
有機溶剤	50.2	22.3	7.3	15.9	4.3	100
大麻	24.5	25.1	21.7	24.5	4.3	100
覚せい剤	26.0	25.4	17.4	26.9	4.3	100
「シンナー遊び」経験群 (男子+女子) n=956						
有機溶剤	52.0	20.5	8.9	15.1	3.6	100
大麻	25.2	25.0	19.4	27.0	3.5	100
覚せい剤	27.6	23.6	18.0	27.4	3.3	100
男子 n=36,740						
有機溶剤	23.3	18.3	19.6	35.6	3.2	100
大麻	7.9	15.3	23.8	50.0	3.0	100
覚せい剤	8.9	15.1	22.3	50.8	2.8	100
女子 n=35,056						
有機溶剤	14.8	19.6	20.2	42.6	2.8	100
大麻	5.4	15.7	22.4	53.9	2.6	100
覚せい剤	6.8	15.8	21.0	53.9	2.4	100
男子+女子 n=71,796						
有機溶剤	19.2	18.9	19.9	39.0	3.0	100
大麻	6.7	15.5	23.1	51.9	2.8	100
覚せい剤	7.9	15.5	21.7	52.3	2.6	100

表 68 違法薬物の入手可能性の比較

の入手を想定した者が多かった可能性がある。

ただし、大麻・覚せい剤の入手可能性に比べれば、「シンナー遊び」の経験の有無に関わらず、常にはるかに高い結果であり、実感として納得できるところである。

問題は大麻及び覚せい剤である。この設問は今回が初めてのため、推移を比較できない。しかし、「シンナー遊び」経験者群では、男女共に、大麻でも覚せい剤も、「手に入る」を選んだ者が50%強であったことは、第3次覚せい剤乱用期⁹⁾を象徴するような結果であろう。今後の継続的な調査が要求される項目である。

7. 薬物乱用に対する法の遵守性

わが国の規制薬物乱用が、多くの他国に比べて少ない背景には、国民の法に対する遵守性の高さがあるのではないかと本研究者らは推定している。

喫煙については非喫煙群全体の12%（表36）の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、「シンナー遊び」に関しては、それを選んだ者は「シンナー遊び」非経験者群全体の4.1%（表9）に過ぎず、大麻では「シンナー遊び」非経験者全体の2.4%（表56）であったことは、同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤乱用への垣根は高いことを物語っている。（覚せい剤に関しては、今回は尋ねていない）

しかも、表55と表59に示したように、「シンナー遊び」の経験と大麻・覚せい剤乱用の経験とは、強い結びつきを持っており、「シンナー遊び」が持つ大麻・覚せい剤乱用への「ゲイトウェイ・ドラッグ」としての深刻さは明確である。

8. 「ゲイトウェイ・ドラッグ」としてのタバコとアルコール

中学生における喫煙及び飲酒が「シンナー遊び」への「ゲイトウェイ」になっている可能性が高いことは以前より指摘してきたが⁴⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾、表52及び表53の結果は、大人が同伴しない飲酒と「シンナー遊び」との結びつきの強さと、喫煙経験と「シンナー遊び」との結びつきの強さを再確認させるものである。このことは、薬物乱用・依存に果たす「仲間」の役割の大きさを強く示唆している。

中学生における喫煙・飲酒防止教育を行う際に指摘すべき、重要な点の一つと考えられる。

E. 結論

わが国の中学生における薬物乱用の広がりを把握し、特に有機溶剤乱用に関する危険因子を特定することによって、中学生に対する薬物乱用防止対策の基礎資料として資するために、飲酒・喫煙に対する意識・実態、大麻・覚せい剤乱用に対する意識・実態をも含めて、1998年10月に、層別1段集落抽出法により選ばれた全国208校の全生徒を対象に自記式調査を実施した。その結果、148校（対象校の71.2%）より、71,928人（対象校208校の全生徒の63.5%前後）の回答を得た。有効回答数は71,796人（対象校208校の全生徒の63.4%前後）であった。

ただし、回答が得られなかった県が2県あり、都道府県毎の回答率には、未だ少々ばらつきがあることをふまえた上で、本調査の結果を利用する必要がある。

このような限界はあるが、以下のような結論を得た。

- ①男子では1.7%（1年生1.2%、2年生1.6%、3年生2.3%）、女子では0.9%（1年生0.9%、2年生0.8%、3年生1.1%）、全体では1.3%（1年生1.1%、2年生1.2%、3年生1.7%）の者が、これまでに有機溶剤乱用を経験したことがあると回答した。この結果は、1996年に実施した第1回全国調査の結果（男子で1.4%、女子で0.7%、全体で1.1%）よりは高い値であった。
- ②しかしながら、有機溶剤乱用を目撃したことのある率は、1996年の11.8%から10.3%に減少しており、有機溶剤乱用に誘われたことのある率は1.6%と同率で、身近に有機溶剤乱用者がいると答えた率は5.2%から5.4%に増加していた。
- ③一方、千葉県では、1990年以降、同種の調査を継続実施しているが、その結果では、男子での「誘われた」率が微増した以外は、生涯経験率も目撃率も、身近に乱用者がいる率も、すべて明らかに低下していた。
- ④したがって、総合的に判断した場合、わが国の中学生の有機溶剤乱用の広がりは、1996年と比べて、横這いであると解釈するのが妥当であろうと考えられる。

⑤しかし、「少年非行等の概要(平成10年1～12月)」(警察庁生活安全局少年課)によれば、1998年の「シンナー等の摂取・所持で補導した犯罪少年は、4,496人で、前年に比べ339人(8.2%)増加し、平成2年以來8年ぶりの増加」となっている。人数的には、1995年の5,456人よりは少ないが、1996年の4,489人を少々上回った数であり、有機溶剤乱用が、再度増加し始めている可能性が危惧される現状にある。

したがって、今回の生涯経験率の微増は、上記の反映の可能性もあり、有機溶剤乱用の動向には、これまで以上の注意が必要である。

ただし、1996年の第1回全国調査では、全国での回答率(学校数で)は58.1%であり、しかも、回答を全くいただけなかった府県が8つあり、これらの中には、人口10万人当たりの覚せい剤取締法違反検挙者数が全国平均よりも高い¹⁹⁾府県が4つ含まれていた。その点、今回の調査では、全国での回答率が71.2%と増加し、同時に、回答を全くいただけなかった県が2つだけであった点は、今回の結果を1996年の第1回調査の結果と比較する際には考慮すべきであろうと思われる。

⑥有機溶剤乱用経験者群では、非経験者群に比べて、日常生活の規則性、学校生活、家庭生活、友人関係において、好ましくない傾向が統計学的有意差を持って強いことが再確認された。

⑦その背景には、家庭生活のあり方が大きく影響していると考えられる。経験者群では、「親との相談頻度」「家族との夕食頻度」が有意に低く、逆に「大人不在での時間」が有意に長く、家庭は「うまくいっていない」を選んだ者が有意に多かった。

⑧結局、有機溶剤経験者群は、総体的に見れば、家庭にも、学校にもなじみず、友人関係も希薄な中学生たちが多く、「居場所のない子供たち」と推定することができよう。

⑨また、中学生における喫煙と大人が同伴しない飲酒は、有機溶剤乱用と強い繋がりを持っており、これらは、有機溶剤乱用への「ゲイトウェイ」となっている可能性が強く示唆された。

⑩有機溶剤乱用による医学的害については、「歯の腐食」、「無動機症候群」、「フラッシュバック」についての知識は、男女共に、経験者群の方が知っているという結果であり、「知識」と「行動」の不一致を改めて確認する結果となった。

しかし、従来の調査では、「急性中毒死」、「多発神経炎」、「精神病状態」についての知識保有率も有機溶剤乱用経験者群の方が高かったのに対して、今回の結果では、これらに対しては、非経験者群の方が知識保有率が高いか、あるいは同程度であり、ここ数年間での薬物乱用防止教育推進の結果である可能性もある。

⑪大麻の生涯経験率は、男子で0.9%、女子で0.5%、全体で0.7%であり、覚せい剤の生涯経験率は、男子で0.7%、女子で0.3%、全体で0.5%であった。1996年の第1回調査では、それぞれ大麻では、0.7%、0.3%、0.5%であり、覚せい剤では0.4%、0.2%、0.3%であった。これらの結果は、大麻でも覚せい剤でも生涯経験率の微増を示しているが、結果の数字自体が、無回答の者の割合よりも低く、積極的に論じることができない。

⑫違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤乱用経験者群では、男女共に、大麻でも覚せい剤も、「手に入る」を選んだ者が50%強であったことは、第3次覚せい剤乱用期を象徴するような結果であった。

⑬薬物の乱用経験率には、法の遵守性が大きく影響する。喫煙については非喫煙群全体の12%の者が「少々ならかまわない」を選んでいるのに対して、有機溶剤乱用については、それを選んだ者は有機溶剤乱用非経験者群全体の4.1%に過ぎず、大麻では有機溶剤乱用非経験者全体の2.4%であった。同じ依存性薬物と言えども、有機溶剤・大麻乱用への垣根は高いことを物語っている。

しかし、有機溶剤乱用の経験と、大麻・覚せい剤乱用の経験とには、強い結びつきが認められ、大麻・覚せい剤乱用への「ゲイトウェイ」としての「シンナー遊び」の持つ意味が強く示唆された。

注1:

本調査は、対象校の全生徒を調査対象とした。しかし、1996年に実施した第1回全国調査の際、特殊学級での調査を見合わせたい旨の問い合わせが少なからずあり、また、学校の判断で、特殊学級での調査を見合わせた学校も少なからずあった。同時に、この種の調査に際しては、特殊学級の扱いをはっきりさせた方が実施上混乱が少ないとの意見もいただいた。

そのため、今回の調査に際しては、特殊学級で本調査を実施した場合、実施過程及び結果の出し

方上、生徒のプライバシーが露呈する可能性が大であるとの判断で、全生徒を対象にしながらも、「ただし、学校によっては、いわゆる特殊学級がおりかと思いますが、今回は調査対象としておりませんので、調査は結構です。」との但し書きを付けた。

これに対して、ある自治体教育委員会担当者より、「特殊学級の生徒を排除しているように受け取れる」とのご意見をいただいた。

当方には排除の意図は全くなく、上記いきさつの下での対象の限定であったことをご理解いただきたい。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 第34回日本アルコール・薬物医学会にて発表予定

謝辞

本調査研究にご回答をいただいた、多くの学校関係者および生徒、ならびに、本調査の実施に関して御尽力いただいた多くの方々に、心よりお礼を述べさせていただきます。

また、調査用紙回収後の困難な資料整理に協力していただいた、東京ダルク、ダルク女性ハウス、日本ダルクの協力者に感謝いたします。

参考文献

- 1) 尾崎 茂、和田 清、福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）。pp. 61-86. 1986.
- 2) 和田 清、福井 進：覚せい剤精神病の臨床症状--覚せい剤使用年数との関係--。アルコール研究と薬物依存 25:143-158, 1990.
- 3) Wada, K., Fukui, S.: Demographic and Social Characteristics of Solvent Abuse Patients in Japan. The American Journal on Addictions 3:165-176, 1994.
- 4) Wada, K., Fukui, S.: Prevalence of volatile solvent inhalation among junior high school students in Japan and background life style of users. Addiction 88: 89-100, 1993.
- 5) Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Cigarette smoking and solvent use among Japanese adolescents. Drug and Alcohol Dependence 46:137-145, 1997.
- 6) Wada, K., Price, RK, Fukui, S: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998.
- 7) 和田 清：中学生における飲酒—飲酒文化の反映—。日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 36-48, 1999.
- 8) 和田 清：薬物乱用の現状と歴史。神経精神薬理 19: 913-923, 1997.
- 9) 和田 清、勝野真吾、尾崎米厚、中野良吾：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成8年度厚生科学研究費補助金（麻薬等対策総合研究事業）研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」（主任研究者：寺元 弘）第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究（2）。pp. 21-60. 1996.
- 10) 文部省大臣官房調査統計企画課：全国学校総覧1998年版。原書房。東京。1997.
- 11) 和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成6年度研究成果報告書。pp. 35-60. 1995.
- 12) 和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究。平成4年度厚

- 生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成4年度研究成果報告書. pp. 25-63. 1993.
- 13) 和田 清：中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究. 平成5年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究（主任研究者：福井 進）平成5年度研究成果報告書. pp. 27-54. 1994.
- 14) 和田 清：有機溶剤乱用発生の社会的背景—青少年にとり有機溶剤とは何か—. アルコール医療研究 8: 179-184, 1991.
- 15) 和田 清：中学生における飲酒—飲酒文化の反映—. 日本アルコール・薬物医学会雑誌34: 36-48, 1999.
- 16) 和田 清：有機溶剤乱用と家族. 精神保健研究 7: 13-17, 1994.
- 17) 法務省法務総合研究所：犯罪白書. 大蔵省印刷局.
- 18) 厚生省薬務局：平成7年度における麻薬・覚せい剤行政の概況. 1996年. 厚生省薬務局

飲酒・喫煙・薬物乱用についての 意識・実態調査（第五版-98）

飲酒・喫煙・薬物乱用は、青少年の心と体の両面に様々な害を及ぼします。
本調査は、今日の中学生が飲酒・喫煙・薬物乱用をどの様に考えており、また、実際にどのくらいの人が飲酒・喫煙・薬物乱用を経験しているかを調べ、今後の対策の参考にします。

回答者がわからないように以下のように配慮されています。

- ・この調査用紙には、氏名など個人を見つけ出せそうなものを記載する欄はありません。
- ・各質問に対する答えは、自分の場合に最も近いものの数字を丸で囲んでください。
- ・先生には、必要以上に生徒の所には行かず、書き終わった生徒が用紙を提出に来るのを前で待つだけにしていただきます。
- ・生徒は記載が終わったら、配布された封筒に用紙を入れて、封をし、先生の持っている大きな袋に封筒ごと入れてください。
- ・調査用紙は、封を切られることなく（学校の先生などに結果を知られることなく）、当研究室に運ばれ、当研究室で開封し、厳重に保管され、研究以外の目的には使用しません。
- ・集計も、集められた結果を全体でまとめて処理します。個人が特定されることはありません。

各質問に対する回答は、ことわりがない限り、一つだけ選んでください。

ありのままを答えてください。

千葉県市川市国府台1-7-3
国立精神・神経センター
精神保健研究所 薬物依存研究部
TEL. 047-372-0141

- (質問1) あなたは男性ですか、女性ですか？ 1. 男性 2. 女性
- (質問2) あなたは中学何年生ですか？ 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生
- (質問3) あなたの起床時間は、ほぼ一定していますか？ 1. はい 2. いいえ